

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	河本悠吾

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
鹿児島県鹿児島市
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
日本霊長類学会、平川動物園
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 7 月 15 日 ~ 平成 28 年 7 月 18 日 (4日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>今回の目的は、鹿児島県で開催された日本霊長類学会への参加と平川動物園の見学である。日本霊長類学会では、現在までの研究の結果をポスター形式で発表した。また、PWS の三つの出口の一つに動物園で活躍するキュレーターがあることから、最近リニューアルされた平川動物園にて、現在の日本の動物園の展示について学ぶために見学に訪れた。</p> <p>日程 7/15 移動(犬山→鹿児島) 7/16 日本霊長類学会においてポスター発表 7/17 日本霊長類学会 7/18 平川動物園見学、移動(鹿児島→犬山)</p> <p>私はアフリカ・ウガンダのカリンズ森林に生息する、レッドテイルモンキー、ブルーモンキー、ロエストモンキーについて、苦味に対する彼らの苦味受容体の応答に種間で違いがないかを研究してきた。そして今回はこの研究について現在までに得られた結果を発表した。学会での発表は今回が初めてで、とても緊張していた。うまく説明できないときもあり、個人的にはあまりいい発表とは言えなかった。しかしながら、多くの方に発表を聞いていただき、貴重な意見やアドバイスをいただくことができた。この研究の意義や課題を再確認でき、今後私がやるべきことがはっきりしたように思う。また、ほかの研究者の発表では、私と同じように霊長類の味覚について研究している方や、私の研究の対象種の生態についての発表があり、非常に興味深かった。その方々と交流する機会もあり、研究に生かせそうな情報・意見をいただくことができた。二日間という短い日程だったが、今後私が研究をさらに進めるための、非常に重要な機会であったと感じた。</p> <p>平川動物園は最近どんどん施設がリニューアルされているということで、きれいな施設が多く、敷地も広大であった。檻のない展示も多く、観察しやすかったように感じた。自分が気に入ったのはフライングゲージとリスの森である。どちらも動物と同じ空間内に入ることができ、かつ中はジャングルのように植物が生い茂っているので、動物を探すのがとても楽しかった。夜の動物園で訪れるとモモンガなどもそこで見られるということで、また時間を変えて来てみたいと思った。フクロテナガザルやレッサーパンダが樹上で過ごしている様子を観察できる展示も魅力的であった。展示物の中で気になったものは各種の紹介パネルである。中心に動物のイラストがあり、その周りに解説があるのだが、このイラストがとてもかっこよく、一つ一つ見るのが楽しみだった。全体を見てみて、緑が多く、きれいな川が流れている、園内の自然にあふれた雰囲気がとても気に入った。また、足湯が二か所あり、そこで休憩できる場所も素晴らしいと感じた。園内は広く、展示も多かったが、順路がしっかり示されているため、くまなくすべてを見て回れるように配慮されていた。また行ってみたいと感じた。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>

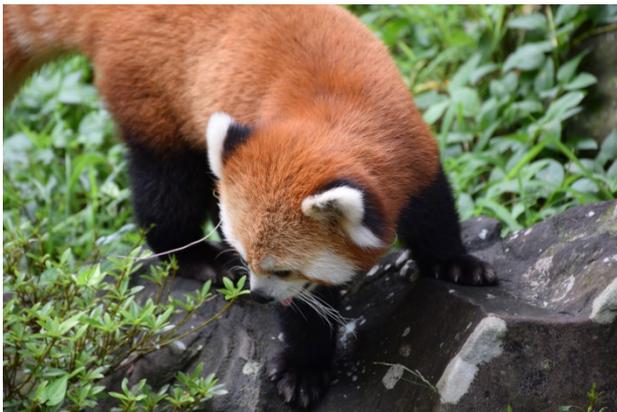
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ホワイトタイガー



展示パネル



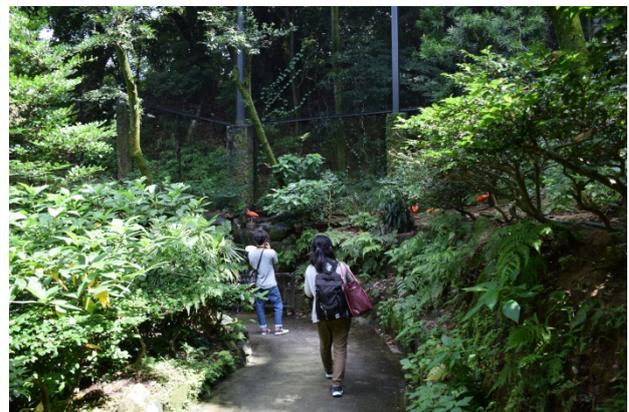
レッサーパンダ



フクロテナガザル



バーバリーシープとマントヒヒ



フライングケージ

6. その他 (特記事項など)

本学会への参加は PWS の支援により行いました。感謝申し上げます。